参考資料

１．元寇について

元寇は文永 11（1274）年（文永の役）と弘安４（1281）年（弘安の役）の２回にわたって元（モンゴル帝国）が日本に襲来した事件です。朝鮮半島や中国大陸を出発した元軍は対馬・壱岐、また西北九州を経由して博多に進軍しており、対馬・壱岐や平戸、松浦半島および周辺の島々、博多周辺は大きな被害を受けました。元寇に関する遺跡としては、文永の役後に博多湾沿岸に築かれた「元寇防塁」や、弘安の役の際に暴風雨により沈没した元軍船が見つかった松浦市の「鷹島神崎遺跡」などがよく知られています。

２．弘安の役瀬戸浦古戦場・少弐資時の墓について

弘安の役瀬戸浦古戦場は、壱岐市芦辺町箱崎大左右触に所在する遺跡で、一部は県の史跡に指定されています。

弘安の役の際には六月二十九日から七月二日に、瀬戸浦を中心とする海上一帯で元軍と日本軍の戦闘が行われました。江戸時代末期に編纂された『壱岐名勝図誌』にも、『歴代鎮西要略』を引用して、七月二日に松浦党や彼杵氏、龍造寺氏などの兵が瀬戸浦で元軍と戦ったことが記されています。

この戦いで日本軍は元軍に大きな損害を与えますが、日本側にも損害があり、中でも奮戦の末 19 歳の若さで戦死した少弐資時は有名です。弘安の役瀬戸浦古戦場の遺跡範囲から大左右川河口を挟んで対岸にある少弐公園にはこの少弐資時のものと伝わる石積墓があります。また近隣には少弐の千人塚があり、一帯が激しい戦いの地となったことがうかがわれます。

３．壱岐高校東アジア歴史・中国語コースによる歴史探究の歩み

長崎県埋蔵文化財センターでは平成１５年度にコースが開設されて以来、授業支援を行っています。以前は考古学の概説的な講義や原の辻遺跡発掘体験等の実習を行ってきましたが、平成２９年度から奈良大学主催の全国高校生歴史フォーラムに研究論文を応募するための研究支援という形態に改めました。研究に取り組む中で歴史の面白さを実感してもらうと同時に、１つの研究にチームで取り組み、生徒一人ひとりの得手不得手を補い合いながら研究の一連の流れを経験することで、今後何かを探究したいと思った際にどのように取り組めばいいのか考える素地を培うことを目標に支援しています。令和元年度からは一定の授業時間を確保してセンターと共に発掘調査を実施しており、令和２・３年度はその成果を基に研究を行いました。令和５年度は勝本城跡の門の大きさに対する疑問から、西北九州の同時期の城館との比較や、勝本城に関する記録を調べ、その理由を探る研究を行いました。

【資料１】文久元（1861）年　後藤正恒著　吉野鞆千代画『壹岐名勝図誌』巻之二十五

瀬戸浦

浦居　二百十四戸

口員八百九十人　内四百五十一人男　四百三十九人女

船四十七艘　内六船三艘、小船十三　艘、余ハ伝聞なり。

当浦ハ村の巽にして、芦辺浦と海を隔てたれとも相対して近し。船路十壱町と云。浦居長六町四十七間、七千三百七十坪四合七勺三才なり。浦を瀬戸と名付たるハ風土記に云、むかし立上の崎を巡りて平江・海老川を経、中崎の辺まて入津する所なれハ、かく名付つるにや。且瀬戸の瀬といひ伝へて、神小路志自岐社鎮座の岸より六間去て民家の庭中にあり。長壱間一尺三寸　弘さ三尺　又中浦に八郎大明神と云神石あり。巾九尺　横四尺　高三尺三寸余　亦浦口の海中に子持瀬・孫太瀬・打釣瀬・口か瀬・神ノ瀬なといふ瀬あり。考へ知へし云々。

此浦家居初三戸ありしといひ伝ふ。然れとも海東諸国記にも当浦三十余戸としるせり。嘉吉の頃すらかゝれハ三戸ありしといへるハ、なほ其以前いと久しき事なりかし。○歴代鎮西要略巻三云、弘安四年辛巳、蒙古大軍襲来。夏六月、元霊古阿剌罕・范文虎為二上将一、惣二数千艘之舟師一、以伐二我国一。其兵不レ知二幾百万一、襲二来於壱岐・対馬・松浦・平戸・筑前之北海一。舳艫千里而蔽レ空、鉦戦輝レ天映々矣。鎮西未レ見二異狄之如レ是軍勢一云々。少弐・大友・島津・菊地以下鎮西諸国之侯伯三十二人、及中国軍兵参二陣於大宰府一者廿五万騎也。至二宗像・香椎・立花・多々良浜・青柳・箱崎・博多・名島・鳥飼・赤坂・生松原・百路原・今津・今張・姪浜・松浦・平戸、東西数十里張レ陣如二蟻之列一。七月二日、松浦党・彼杵・千葉・高木・竜蔵寺等、以二数万兵一、相二戦於壱岐島瀬戸浦一、先克奏レ勝、異賊登二舶上之高楼一、而放二火箭鉄炮一、大為レ御。我兵

為レ之被二砕死創一若干也。云々。これらの文に因て考ふれハ、古戦場の地なり。瀬戸浦の乾、平江の坤にある唐人塚といひ伝ふるものハ、彼弘安度蒙古人の塚ならむと思ハるゝなり。昔時ハ平江まてハ、必賊船乗人たりけむとみえたりける地理なれハなり。かゝれハ弘安の頃も家居ハありしなるへし。然れとも兵乱の為、多ハ亡ひしならむ。其後嘉吉の頃ハ三十余戸となりぬ。慶長以来ハ黎民大平の化に浴し、子孫増々繁栄して、今既に二百十余戸となり、町の小名ハ崎川・堅町・神小路・中浦・岩崎・しやうつの坂・西浦なといへり。見好書云、瀬戸補に天正の頃迄男あり。島国より二人来の小船来る。しかるに親子なり。父病死す。子数くこと乗りなし。図男云、我父となり、公所につれんと、終に来船し一里程沖に碇泊、荷を盗み隠して居に、夜な〳〵二人の密魂来り船で云、汝ハ大罪の御迷者なり。一七日中迄毎日へ家内驚くといへとも為方なし。図男か一子盗人敵二人の衣装を着代、図男諸で船万と云、鉄にて頭を打破る。妻嘆て夫を泣へ共打合、終に妻を行殺して、夫二人まて自刎する敵、柳の枝しを事なり。

瀬戸浦

（見開き右側ページが現在の壱岐神社・少弐公園一帯）

【資料２】瀬戸浦周辺元寇関連遺跡及び伝承地（長崎県学芸文化課「長崎県遺跡地図」に加筆）